



Upside Japan
THE TECH INSIDER www.upsidejapan.com

！ホーム！UPSIDEについて！UpsideToday米国版！

！コラム！ビジネスモデル！注目の企業！キーパーソン！業界動向！アジア最新ニュース！ITな暮らし！



Upside Japan / コラム

ラリルレロンドッコイショ

中村伊知哉@LANTIC【第14回】



注目記事

- ・MSNが音楽配信サービスに参入!
- ・ネットのコンテンツで金は取れるのか?
- ・マイクロソフトがトランスメタと提携!
- ・iモードがアメリカにやってくる!
- ・ハイテク株よ、底の底まで落ちてくれ
- ・略語の山に埋もれたB2Bマーケット



デジタル用語辞典:

検索



1999年12月24日

とてつもない文化貢献 - ポケモン

庭の花にこがね虫がいる。緑の体に赤い羽根。シューベルツの『風』という歌がはやっていたころ、近所のバラ園でたくさんつかまえたやつだ。たしかマメコガネという名前だ。アメリカでの呼び名を調べてみた。ジャパニーズビートルというらしい。害虫で、嫌われてるんだそうだ。いまテレビでやってるビーファイターカブトはけっこう好かれてるようなのだが、やはりジャパンはおキライか

好かれているといえばポケモンだ。大変なことになっている。わが家の前には毎朝ガキどもが集い、日本製のカードをポケモンおじさん(私のことだ)に見せてもらおうとせがむ。日本産と知っててブレイクしているところが従来のキャラクターとの違いだ。おじさんは、ポケモンいえるかなを少し歌ってやり、カタカナを教えてやる。やつらは千石イエスをあがめるような眼差しで濃い日本文化を吸収していく。とてつもない文化貢献であるぞポケモンは。

いや、親からは決して好かれているとは言えぬ。とうとう地域の小学校が、ポケモン禁止令を出した。ポケモンカード持参するべからず。ピラをまきやがった。とうとう来たか弾圧。近所からピラを集めて、大学の部屋にベタベタ貼ってやった。ピカチュウ、マサチューセッツを征服、マサチューセッツ、文化を弾圧、と書いて。

日本政府、黙っていいの？ 私は民間人として攻めるぞ。次はシーマンだぞ。シーマンの英語版つくってるらしいから、ヤツをアメリカの茶の間に秘密兵器として送り込んで、和やかな家庭をうつつしい雰囲気にしてやる。ケケケ。

シューベルツの『風』:シューベルツの『冬の旅』とは全然関係ない。『風』は、“はしだのりひことシューベルツ”が'69年にシングルリリースした、フォーク歌謡の代表曲。シューベルツ以前に端田宣彦が所属していたフォーククルセイダースは、280万枚という最多セールス(当時)を記録した『帰ってきたヨッパライ』で人々の記憶に残っている。

ジャパニーズビートル:“Popillia Japonica Newman”という学名が示す通り、日本原産の昆虫。'13年、苗に潜んで米国に侵入。体長は8~10mm。果物を好み、特に桃は大好物。メタリックグリーンボディに赤銅色の羽と、なかなかオシャレな色使い。

日本製のカード:ヤンキーなお子様たちのあいだでは、日本版のポケモンカードが大人気。映画マトリックスでも見られた“日本語がクール”という風潮が、子どもたちにも影響しているらしい。ちなみに全日空はポケモンジェットを成田/ニューヨーク線に投入しているが、某ウェブサイトには“Japan Airlines”と紹介されてしまっている。ガンバレ全日空。なんとかしろ全日空。

千石イエス:さほど悪いことをしていないのに、さも極悪人であるかのように報道されてしまった宗教者。信者の女性たちには“おっちゃん”と呼ばれていた。'85年にはテレビドラマ化すらされたのに(主演はビートたけし!)、今では話題にも上らない。

シーマン:「仕事なにやってんの?」「ホステス」「ウヒョー!」...。アメリカじゃ、すぐに“性差別だ”と訴えられるに違いない。

日本を見て驚いてもらえ

いえ、真面目に攻めないといけませんね。このあいだメディアアラブ・大川センターで、[マインドフェスト](#)というイベントを開催した。子供のクリエイティビティーを喜び合う集いだ。そこに慶応大学SFCの鈴木助教授とリクルートの方々が来てワークショップを開いてくれた。ネットワークでチャットしながら共同でお絵かきできるソフトを持ち込んで、子供たちに作品を作ってもらったのだ。感謝。こういうことをどんどんやりたい。

アメリカの状況を日本に輸入することに私は加担するつもりはない。平城京の頃には中国を追い、その後ポルトガルを追い、江戸時代はオランダに学び、明治は欧州に学び、戦後は

アメリカを追いかけてきた。よそと比べて劣るところを手直しすることに慣れてしまい、おかげで、強みを強化する姿勢を忘れてしまった。ちょっとでいいから改めよう。だから私は輸出に力を入れる。

マインドフェストが終わってから、メディアラボの3教授がそれぞれ別件で東京に飛んだ。ミッチェル・レズニック、トッド・マッコーパー、ジョー・パラディソの3名。スーパースリーである。世界のためなら、私も追いかけて、ハリホー、つかまえて、ラルルレロン、夜、エンヤトット、東京ジョイポリスに連れてったドッコイショ。しかと日本を見て、驚いて、考えてもらいたいから。

ミッチェル・レズニック: Mitchel Resnick. 認識論を専門とし、“分散化型思考”をベースにした独自の教育論を展開。レゴ『マインドストーム』の研究に関わるほか、放課学習施設の[Computer Clubhouse](#)を提唱、運営指導している。

トッド・マッコーパー: Tod Machover. ジュリアード音楽院出身の音楽家兼研究者。MITにてThings That Think (TTT)とToys of Tomorrow(TOT)という2つのプロジェクトに関わっている。マッコーパー氏の作品は、ロサンゼルス交響楽団やボストン・フィルなど、世界中の著名な楽団によって演奏されている。

ジョー・パラディソ: Joseph A. Paradiso. MITにて人/コンピューター/環境という三者間のインターフェースを研究する[Responsive Environments Group](#)のディレクターを務める。また、シンセサイザー研究の第一人者としても知られている。

東京ジョイポリス: セガが東京・お台場にオープンした大型アミューズメントパーク。ちなみにジョイポリスの最寄駅はお台場海浜公園であって、青海にあらず。観覧車が目印なのはネオジオワールドなので、間違わないようにしたい。

子供はポケモン、大人はアットマークに浮かれています

だがカネはいまアメリカに頼っているようだ。ここんとこアメリカから日本に資金が急速に流れてきているらしい。米国内ではデジタル系への出資も一巡して、だぶついたカネが日本のインターネット系を物色してるんだと。

確かに東海岸でもインターネット系がブイブイ言わしていることはいつも聞かされているし、テレビのCMもドットコムとかイー何とかだとか、そんな名前ばかり出ている。子供はポケモンに浮かれています、大人はアットマークに浮かれています。インターネット禁止令だしてやりたい。ピラで。

ただ、見るところアメリカもインターネット・ビジネスの本格化はまだこれからだ。インターネット系って、多くは窓口業務のサイバー化なんだな。顧客とのインターフェースをデジタルにしてるってことだ。だから今インターネット系は、その後ろの業務、例えば在庫管理とか運送管理とか財務管理とか、そういうリアルなビジネス分野を急速に手当てしている。同時に、これまで店舗を構えてリアル・ビジネスやってきた大手が、遅ればせながら、顧客インターフェースのインターネット化に乗り出した。

サイバーがリアルに向かうのと、リアルがサイバーに来るのが、どうやら拮抗しはじめたようなのだ。そうだ。ここから本番だ。どっちが早く行くかはまだわからない。どっちが勝つかはまだわからない。まして日本の場合、どっちもヨーイドンってとこだ。ビジネスの土壌も違う。まだ全然わからない。しかと日本を見て、考えないとラルルレロン。

窓口業務のサイバー化: 典型的なのが米国の航空会社。消費者がエアチケットを直接オンライン購入するようになったことから、旅行代理店へのコミッションに8パーセント(最大でも100ドル)という上限を設けた。航空会社にとって代理店は、いわば窓口業務の委託先であって、この経費がサイバー化で削られるようになったのだ。

ラルルレロン: スーパースリーって、あったねえ(懐)。

中村伊知哉 プロフィール



マサチューセッツ工科大学 客員教授
'61年生、京都市出身。京都大学経済学部卒。

在学中はロックバンド“少年ナイフ”のディレクターで活躍。
'84年、郵政省入省。'93年からパリに駐在し、'95年に帰国後は郵政大臣官房総務課課長補佐を務める。'98年、郵政省を退官し、(株)CSK特別顧問に就任。同年、マサチューセッツ工科大学 客員教授に就任。

著書に『インターネット,自由を我等に』(アスキー出版局)などがある。趣味は、ずばり“メディア”。

ホームページ: <http://www.media.mit.edu/~ichiya/jpn.htm>

(C)Hajime Anzai

▶ [中村伊知哉@LANTIC【連載リスト】](http://www.upsidejapan.com/upside/column/) (<http://www.upsidejapan.com/upside/column/>)

(中村伊知哉)

‡ ASCII24 ‡ ASCII24 Business Center ‡ 日刊アスキー Linux ‡ アスキーデジタル用語辞典 ‡
‡ auto-ASCII24 ‡ Shes.net ‡ ASCII Job Serve. ‡ アスキートップ ‡

‡ [個人情報の取扱いについて](#) ‡ [編集部へのコンタクト\(info@upsidejapan.com\)](mailto:info@upsidejapan.com) ‡ [広告掲載のご案内](#) ‡

Copyright (C)1993-2000 Upside Media Inc.
Copyright (C)2000 ASCII Corporation.
All rights reserved.